

日本旧石器学会

ニュースレター 第57号

NEWS LETTER No. 57

JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION



## 会長就任のご挨拶 堤 隆

日本旧石器学会の使命は、日本列島に最初に足を踏み入れた人々の姿を、会員の多様な研究アプローチから明らかにすることにあります。

私は、2024年6月22日の総会で会長に選出され、微力ながらその職責を務めることになりました。現在まで明治大学黒曜石研究センター特任教授として資源環境と人類に関する研究にあたっていますが、多様な課題の中で、とくに以下の3点を注視し、学会運営を行って参ります。

- 1 旧石器研究の国際化の推進
- 2 第四紀諸分野との研究連携
- 3 若手研究者、旧石器専攻生の育成、および社会とのコミットメント

### 1 旧石器研究の国際化の推進

日本旧石器学会員は230名余、データベース登録遺跡は10000か所以上と、会員数、遺跡数とも世界に突出しています。また、最古の落し穴や環状キャンプ、局部磨製石斧の存在、黒曜石原産地推定の進展、石器群のデータベース化などグローバルな視点からも目を見張る要素があります。この強みを生かし、ネット環境なども活用して国際的な情報発信が必要となります。今日、海外誌への論文投稿も急増し、機運は醸成しつつあります。

直近の大きな舞台となるのは、2025年東北大学を会場に行われるアジア旧石器協会 (APA) です。役員や開催校の皆様、そして会員の皆様とともにAPAを成功裏に導くよう努力します。

あわせて旧石器時代英文データベースの段階的公開にも踏み切りたく思います。

### 2 第四紀諸分野との研究連携

いうまでもなく旧石器研究は、ひとりのみで進められるものではありません。多様な第四紀諸分野との協働を、会誌『旧石器研究』はもとより、研究発表、シンポジウムにおいてもはかって参りたいと思います。



© F. OKI

- 3 若手研究者、旧石器専攻生の育成、および社会とのコミットメント

絶滅の危機にあるとも揶揄される考古学研究者ではありますが、私は学会の補助金を活用し、旧石器時代基礎研究・次世代育成研究グループ (愛称パレオ・ラブ) において、5年間その育成に取り組んでまいりました。

2024年6月、明治大学黒曜石研究センターおよびパレオ・ラブが実施した石器技術研究シンポジウムでは、90名の参加者のうち31名が学生という活気を見せ、口頭発表やポスター発表など、積極的な取り組みがみられました。この機運を生かし、さらなる若手研究者、旧石器専攻生の育成に取り組みます。そのための、学生会員の会費優遇制度なども実現したく思います。

なお、考古学という営為は、社会とのコミットメントなしには実現できないという点があります。学会では、普及講演会などアウトリーチ活動の推進を積極的にはかります。

以上を含め、学会員の皆様へ、会誌や旧石器情報のスピーディーな提供、研究の推進や普及事業、相互交流など様々なメリットを提供できるよう取り組み、会員の皆様と共に、日本旧石器学会を創造して参りたい所存です。

## 日本旧石器学会第22回大会の開催（報告）

2024年度日本旧石器学会第22回総会・研究大会が、2024年6月22日（土）・23日（日）に岡山理科大学で開催された。

### 総会

6月22日13:00から総会が開かれた。事務局からの推薦により西井幸雄会員が議長に選出された。その後、各委員会から2023年度活動報告ならびに2024年度活動計画案の説明があった。それぞれ質疑ののちに審議が行われ、採決により各委員会の活動計画案が承認された。各委員会からの報告ならびに計画案は本誌を参照されたい。続いて2023年度旧石器学会賞の受賞者の発表と授賞式が行われ、学会賞は佐久間光平会員、論文賞は山田 哲会員にそれぞれ贈呈された。最後に、今年度、新たに選出された堤会長より就任の所信表明がなされ、総会が締めくくられた。

### 一般研究発表

総会に続いて一般研究発表が行われた。伊藤健、三好元樹ほか、及川 穰、岩瀬 彬ほか、尾田識好ほか、夏木大吾、戸塚瞬翼の各氏（連名発表は発表責任者名のみ記載）による7本の発表があり、質疑応答が行われた。

### ポスターセッション

6月23日にコアタイムが設けられ、森先一貴ほか、岩瀬 彬ほか、鈴木秋平、菅 紀浩ほか、高倉 純ほか、橋詰 潤ほか、北村成世ほか、中村由克、藤野次史ほか、山岡拓也ほか、小菅将夫、岩瀬 彬ほかの各氏（連名発表は発表責任者名のみ記載）による計12本の発表があり、各ブースにて活発な意見交換が見られた。

### シンポジウム『湧別技法：展開とその背景』

シンポジウムは6月23日に開催された。最初に研究企画委員会高倉 純委員長から趣旨説明があり、続いて5人による発表が行われた。

高倉氏は、設定から60年以上を経過した「湧別技法」研究の現状整理を行い、技術、年代、石材利用、在地石器群との関係から各地域の現状と課題を

論じてもらうとの説明があった。

青木要祐氏は「東北・北陸地方への湧別技法の展開」について、自身が調査に携わった、新潟県角二山遺跡、同越中山遺跡の事例をもとに発表された。打面に擦痕をもつ白滝型細石刃核とその石器群の年代決定が課題であること、角二山遺跡での広郷型細石刃核の確認によって本州の札滑型や白滝型との共伴が問題になることを述べた。

堤 隆氏は「中部・関東地方への湧別技法の展開」と題して、これまでの自身のフィールド調査の成果を振り返りつつ、湧別技法の波及についての見解を示した。稜柱系細石刃石器群と削片系細石刃石器群をそれぞれ「集団」とみなすことで、両者の接触を背景とした技法の受容を論じた。

光石鳴巳氏は「近畿・中四国地方への湧別技法の展開」と題して発表した。細石刃石器群のほとんどが表面採集品か遊離資料であるにしても、この地域では「在地的」な細石刃石器群の性格がいまいち不明である。その背景には、ナイフ形石器群が比較的遅くまで残ることが考えられるとし、そこに恩原遺跡のような湧別技法集団が何がしかの影響を及ぼすのではないかとの見通しを示した。

加藤真二氏は「中国北部における湧別技法の展開」を述べた。その出現・拡散モデルに言及し、湧別技法を含む北方系細石刃石器群は北東アジアにおいて多角的に出現する背景には、良質な石材産地を結節点とするネットワークの広がりが捉えられること、また北部や東北部への石器群拡散の背景として、気候の温暖湿潤化にともなう集団の移動と人口増加の結果であると考えた。

平沢 悠氏は「東西ベリンジアの湧別技法：北米移住仮説に関する視点から」と題して、東ベリンジアに分布する北方系細石刃インダストリーの拡散について論じた。考古学的な視点のみならず、古遺伝学的アプローチと合わせて、北東アジアからベリンジアに至る細石刃石器群の広範な分布の背景に想定される人類集団の分岐と移動の仮説を提示した。

パネルディスカッションでは、湧別技法の広域比較がなされ、趣旨説明での項目にそって整理がなされた。討論後は各論者とフロアとの質疑応答、稲田孝司、佐藤宏之両前会長の講評があり、このテーマにおける今後の展望が語られた。

（ニュースレター委員 仲田大人）

## 2023年度委員会報告

2024年6月22日（土）に日本旧石器学会総会が開催された。2023年度の活動について各委員会の報告があり、審議の後に承認された。内容については以下の通りである。

### 総務委員会

2023年度の総務委員会の活動は以下の通りである。

#### （1）会員情報の管理

・2023年度新入会員14名、退会者は4名で、2024年4月1日現在での会員数は会費長期滞納により権利を停止している会員を除き228名である。

#### （2）総会・研究発表・シンポジウム開催に関する意見交換・連絡調整・資料の作成

・2023年度は東京都立埋蔵文化財調査センターで対面開催した。公式懇親会は行わなかった。

#### （3）会務に関する連絡・調整、各委員会間の連絡・調整

・随時メール連絡等を通じて実施

#### （4）会誌、ニュースレター、各種学会連絡文書の発送に係る事務

・会誌の発送業務：2024年6月上旬予定、20号

・ニュースレターの発送業務：2023年8月第54号、12月第55号、2024年4月第56号

（5）日本考古学協会で図書交換会が再開されるが、刊行時期の関係から卓は設けず、シンポジウム予稿集及び会誌は全て郵送とする。

#### （6）研究グループ支援制度に関する事務

・「旧石器基礎研究・次世代育成グループ（パレオ・ラブ）」（研究代表者 堤隆）については、2023年度活動報告をニュースレター第56号に掲載。継続支援を希望。

#### （7）日本旧石器学会賞

・2023年度総会において2022年度学会賞・論文賞の授与式を行った。2023年度若手奨励賞の授与については、シンポジウム終了後に執り行った。

・2023年度の学会賞、論文賞選考に係る事務を行った。

#### （8）メーリングリストに関すること

・郵送費の削減や会員への連絡の事務作業量の軽減のため、メーリングリストへの登録を原則、義務化している。現在の登録人数は134名となった。

#### （9）共催・資料提供等について

・日本学術会議シンポジウム「最終氷期以降の日本

列島の気候・環境変動と人類の応答」（2023年6月11日）の後援。

・三都県公開セミナーへのHP掲載画像の使用許諾問い合わせについて対応した。

### 会計委員会

#### 1. 2023年度の活動実績について

（1）役員会、総会・研究発表・シンポジウム時（※現金による取扱い）

・会費・学会刊行物頒布代金の徴収（総務委員会と協同）及び収入の学会口座への預入

・各委員会立替金、仮払金等の現金支出

・日本旧石器学会賞（若手奨励賞）副賞の現金支出（6/25 東京都埋蔵文化財センター）

（2）通年（※口座による取扱い）

・会費納入状況管理、会費納入・住所変更等の総務委員会への報告、刊行物頒布等収入の管理

・シンポジウム登壇者、普及講演会講師及び会議・普及講演会・データベースワークショップに出席した役員交通費補助額の算定・支払（2023年度はシンポジウム登壇者への支払いなし、その他執行なし）

・刊行物（会誌19号、ニュースレター53・54・55号）印刷・発送費支払

・HP管理・リニューアル費、メーリングリスト構築運用委託費、会誌PDF化委託の支払

・APA日本大会経費積立金の口座管理（積立金入金・支払等）

・役員引継ぎに伴う経費（該当なし）及び研究グループ運営経費（2023年度1件）の支出

・その他、学会出納口座の管理

#### 2. 2023年度決算について（表1・2参照）

##### （1）一般会計

##### 収入

予算額を39,580円上回った。会誌等の配布が伸びなかったものの、会費納入で滞納分の納入が進んだこととその他の収入により予算額を上回った。

##### 支出

2つの費目で支出増となったが、他の費目が予算内に収まったため、予算を65,620円下回った（予備費を除く）。

【通信運搬費支出増の原因】信書問題で取扱金額が増えたため。

##### 総括

8,800円の赤字が発生し、2023年度への繰越金

表1 日本旧石器学会 2023年度一般会計決算(案) 単位:円

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会費収入				
会費収入	1,380,000	1,398,000	18,000	延べ233人・年 【内訳】21年度6人, 22年度21人, 23年度197人, 24年度~9人
その他の収入				
会誌頒布代金	201,000	160,800	△ 40,200	最新刊(19号)21冊, バックナンバー28冊
シンポジウム予稿集頒布代金	234,000	228,000	△ 6,000	2022年度は70冊, バックナンバー5冊
その他収入	0	67,780	67,780	会誌カラー印刷(著者負担)
前年度繰越収支差額	2,075,115	2,075,115	0	
収入 計	3,890,115	3,929,695	39,580	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	86,000	62,208	△ 23,792	オンライン会議システム使用料(1件), 総会・シンポジウム運営補助
旅費交通費	83,000	0	△ 83,000	シンポジウム発表者交通費(3件)辞退
通信運搬費	92,000	151,208	59,208	会誌送料等、 <b>信書問題で支出増</b>
消耗品費	3,000	1,799	△ 1,201	領収証・名札ラベル・マーカー・テープ等
印刷製本費	1,280,000	1,223,873	△ 56,127	会誌, シンポ予稿集・NL3件(送料含む)
諸謝金	0	0	0	
委託費	154,000	198,000	44,000	HPリニューアル管理・ML構築運用、会誌 PDF
次回 APA 日本大会経費積立	150,000	150,000	0	
研究グループ運営経費	15,000	15,000	0	1件
日本旧石器学会賞関連経費	37,000	35,324	△ 1,676	賞状製作, 若手奨励賞(副賞あり)
雑費	29,000	25,968	△ 3,032	郵便振替・振込手数料
予備費	1,961,115	2,066,315	105,200	
支出 計	3,890,115	3,929,695	39,580	

※単年度収支

費 目	予算額	決算額	増 減
前年度繰越金を除く収入	1,815,000	1,854,580	39,580
予備費を除く支出	1,929,000	1,863,380	△ 65,620
収支差額	△ 114,000	△ 8,800	

表2 日本旧石器学会 2023年度特別会計(APA日本大会開催経費積立) 決算(案) 単位:円

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
積立金収入	150,000	150,000	0	次回 APA 日本大会経費積立金
その他の収入	0	6	6	利子
前年度繰越収支差額	1,080,011	1,080,011	0	
収入 計(①)	1,230,011	1,230,017	6	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
APA 日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
支出 計(②)	0	0	0	
次期繰越金(①-②)	1,230,011	1,230,017	0	

は2,066,315円となった。

#### (2) 特別会計

所定の150,000円を積み立て、1,230,017円(利子17円)を2024年度に繰り越した。

#### (3) 会計監査

2024年6月15日に、会計監査委員から監査を受け、適正な執行の確認をして頂いた。

### 会誌委員会

#### (1) 会誌「旧石器研究」第20号の編集

ニュースレターなどにおいて投稿募集を積極的に行った。投稿原稿の確認や査読、編集の作業は、委員会で分担して行い、下記の論考を掲載した。掲載論考の内訳は、総説1本、論文3本、資料報告1本、書評1本、大会報告1本である。また、昨年の役員による審議の結果に基づき、残部の状況を確認のうえ、印刷部数を320部から300部に減らすこととする。

・総説

中村由克

「石器石材の特徴と非破壊的な原産地研究法—剥片石器石材—」

・論文

佐久間光平

「忍路子型細石刃石器群の搔器と石器集中地点」

尾田識好(責任著者)・間直一郎・森先一貴・

岩瀬 彬・山崎 健・國木田 大・佐藤宏之

「前田耕地遺跡における縄文時代草創期の遺跡形成過程—出土石器の空間分析を中心に—」

平井義敏・上峯篤史(責任著者)・古川邦之

「下呂石の多様性：火山地質学的背景と石器群における選択性」

・資料報告

諸星良一

「山形県湯の花遺跡採集の黒曜石製細石刃石核の再検討」

・書評

堤 隆

「五十嵐ジャンヌ著『洞窟壁画考』」

・大会報告

間直一郎

「日本旧石器学会 第21回研究発表・シンポジウム「更新世における海とヒトのかかわり」」

#### (2) 会誌バックナンバーPDF化

2023年度から着手した会誌既刊分のデジタルデータ化は1～4号のpdfデータを作成し、残りは5～8号を残すのみとなった。

### ニュースレター委員会

2023年度はニュースレター第54号、第55号、第56号の編集・発行を行った。

【第54号】2023年8月9日刊行(10頁)

- ・第21回日本旧石器学会の開催(報告)
- ・2022年度委員会報告
- ・2023年度活動計画
- ・2022年度日本旧石器学会賞受賞者
- ・2023年度学会賞の推薦について
- ・2023年度日本旧石器学会役員会
- ・日本旧石器学会研究グループの募集
- ・関連学会情報
- ・お知らせ

【第55号】2023年12月1日刊行(12頁)

- ・日本旧石器学会設立20周年  
歴代会長による回顧と展望
- ・2022年度日本旧石器学会賞受賞者報告
- ・役員選挙について
- ・2023年度学会賞の推薦について
- ・日本旧石器学会研究グループの募集
- ・第22回研究大会(2024年)のご案内
- ・『旧石器研究』投稿の募集・お知らせ

【第56号】2024年4月30日(8頁)

- ・腰岳黒曜石原産地をめぐる近年の研究動向
- ・2024年度日本旧石器学会第22回総会・研究発表・シンポジウムについて
- ・2023年度研究グループ活動報告
- ・日本旧石器学会役員選挙結果のお知らせ
- ・出版情報
- ・お知らせ

### 渉外委員会

1. 第11回アジア旧石器協会(APA)に関して

(1) 第11回APA韓国大会(2023年8月18～22日開催)の3rd Circular(2023年5月着信)を学会メーリングリストおよびホームページを通じて会員に周知した。

(2) 同大会にAPA執行委員として佐藤会長、出穂渉外委員長、平澤渉外委員が参加し、8月20日に実施されたAPA執行委員会に出席した。

## 2. 北京原人発見95周年シンポジウムに関して

2024年12月2～4日に中国北京市で行われる「北京原人発見95周年シンポジウム」の1st Circularを学会メーリングリストおよびホームページを通じて会員に周知した。

## 3. 第12回アジア旧石器協会（APA）に関して

（1）佐野会員、出穂会員、森先会員、平澤会員の4名からなる大会準備委員会を設置し、第12回APA日本大会の準備を2024年2月末に開始した。

（2）2024年3月1日に同大会の1st Circularを通じて、開催地および日程について日本旧石器学会員ならびに各国APA執行委員にメール通知した。

## 研究企画委員会

第21回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催

日程：2023年6月24日（土）～25日（日）

会場：東京都立埋蔵文化財調査センター

プログラム：

- ・シンポジウム「更新世における海とヒトのかかわり」発表5本（趣旨説明除く）
- ・一般研究発表：口頭6本（1本20分）、ポスターセッション8本

## データベース委員会

### （1）更新・改訂作業

#### ①基本方針

・「日本列島の旧石器時代遺跡」データベースを“最新のデータにもとづき、より使いやすく、維持管理の容易なデータベースに！”

・2010年版以降の新データと欠落データの追加・補足、収録情報の確認、とくに位置情報の高精度化を進める。

・文献書誌情報の外部データベースとの紐づけ（奈文研「遺跡総覧」ほか）。

・更新作業の進捗状況の確認

#### ②「旧石器遺跡マッピングパーティー」更新作業ハンズオン・ワークショップ（WS）

・今年度の開催なし（作業協力可能な会員の不足など）、山形県など将来的な開催の調整中。

### （2）更新・改訂版の公開準備

・学会ホームページ上に更新・改訂版の公開ページを設置し、更新・改訂が終了した地域のデータを公

開。

・DB項目の英文化作業を終了。Github上での公開を準備中。

## 入会資格審査委員会

2023年4月1日から2024年3月31日の2023年度期間中に以下の12名から入会申し込みがあり、その資格審査を沢田、大竹憲昭で厳正に行い、会長に結果を報告した。

傍島健太（ソバジマ ケンタ）2023年4月3日申込受付、4月14日資格審査結果報告

北村成世（キタムラ ナリセ）2023年4月6日申込受付、4月14日資格審査結果報告

鈴木秋平（スズキ シュウヘイ）2023年4月17日申込受付、4月23日資格審査結果報告

寒川朋枝（サンガワ トモエ）2023年5月12日申込受付、5月16日資格審査結果報告

舟木太郎（フナキ タロウ）2023年5月12日申込受付、5月16日資格審査結果報告

王 晗（ワン ハン）2023年5月22日申込受付、6月6日資格審査結果報告

金 彦中（キム オンジュン）2023年5月25日申込受付、6月6日資格審査結果報告

戴下詩乃（ヤブシタ シノ）2023年6月25日申込受付、2024年2月4日資格審査結果報告（※）

佐藤悠登（サトウ ユウト）2023年6月25日申込受付、2024年2月4日資格審査結果報告（※）

杉山歩夢（スギヤマ アユム）2023年11月6日申込受付、11月11日資格審査結果報告

崔 笑宇（サイ ショウウ）2024年1月6日申込受付、1月27日資格審査結果報告

沖野 誠（オキノ マコト）2024年1月9日申込受付、1月27日資格審査結果報告

（※：資格審査委員会の事務処理のミスにより時間を要した）

## 広報委員会

1. ホームページにおいて、旧石器学会、講演・共催事業・関連学会等の情報を掲載した。

### （1）ホームページ更新

2023年5月18日「ニュースレター53号」の掲載

2023年5月18日「日本旧石器学会 第21回総会・研究発表・シンポジウムの内容」の掲載

2023年5月20日「第11回アジア旧石器協会韓国大会」3rd Circularの掲載

2023年5月22日「2024年度日本旧石器学会第21回

研究発表 ポスター発表」の追加掲載

2023年7月13日「委員会名簿」の委嘱委員追加  
2023年9月4日「ニュースレター54号」の掲載  
2023年9月8日「細石刃発見 70周年シンポジウム  
発表募集」の掲載  
2023年12月27日「ニュースレター55号」の掲載  
2024年1月29日「2024年度日本旧石器学会第22回  
研究発表（一般口頭発表）」募集の掲載  
2024年5月7日「ニュースレター56号」の掲載  
2024年5月20日「2024年度日本旧石器学会研究大  
会プログラム」の掲載

(2) その他

4月4日「石器文化研究会 2023年度第1回例会」  
の案内をメーリングリストにて告知 ※伊藤会員  
から告知  
5月11日「講演会 ベトナムの「旧石器時代-An  
Khe前期旧石器時代遺跡群を中心として」の案内  
をメーリングリストにて告知 ※森先総務委員長  
から告知  
5月26日「石器文化研究会 2023年度第2回例  
会」の案内をメーリングリストにて告知 ※伊藤  
会員から告知  
6月20日「シンポジウム 下原洞穴遺跡」の案内  
をメーリングリストにて告知  
6月29日「Seminar on Hunter-gatherer Behaviour  
and Adaptation in Northeast Asia and Alaska  
during the late Pleistocene and early Holocene」  
の案内をメーリングリストにて告知  
7月1日「ワークショップ Microblades」の案内を  
メーリングリストにて告知 ※森先総務委員長か  
ら告知  
7月4日「石器文化研究会 第287回例会」の案内  
をメーリングリストにて告知 ※伊藤会員から告  
知  
8月29日「石器文化研究会 第288回例会」の案内  
をメーリングリストにて告知 ※伊藤会員から告  
知  
9月7日「細石刃発見70周年シンポジウム 発表募  
集」の告知  
9月7日「ワークショップ 信州鷹山 旧石器研究  
ワークショップ」の案内をメーリングリストにて  
告知 ※堤会員から告知  
9月22日「石器文化研究会 第289回例会」の案内  
をメーリングリストにて告知 ※伊藤会員から告  
知  
10月19日「細石刃発見70周年シンポジウム 日本

列島および東ユーラシアにおける細石刃石器群の  
展開」の案内をメーリングリストにて告知 ※堤  
会員から告知

12月2日「石器文化研究会 第290回例会」の案内  
をメーリングリストにて告知 ※伊藤会員から告  
知

12月4日「東南アジア考古学大会」の案内をメー  
リングリストにて告知 ※森先総務委員長から告  
知

12月13日「APA次期会長決定」の報告をメーリン  
グリストにて告知 ※平澤渉外委員から告知

12月16日「ヨーロッパ旧石器時代の洞窟壁画」の  
案内をメーリングリストにて告知 ※堤会員から  
告知

1月23日「2023年度日本旧石器学会 学会賞・論  
文賞の推薦」の募集をメーリングリストにて告知  
※森先総務委員長から告知

2月13日「旧石器時代礫群の調理対象と調理法」  
の案内をメーリングリストにて告知 ※保坂会員  
から告知

2月19日「学術研究成果のOA化」の報告をメーリ  
ングリストにて告知 ※野口データベース委員か  
ら告知

3月1日「第12回アジア旧石器協会日本大会」1st  
Circularの告知 ※佐野渉外委員から告知

3月15日「セミナー 人新世に至る、モノを通し  
た自然と人間の相互作用に関する研究」の案内を  
を告知 ※総合地球環境学研究所 近藤康久氏から  
告知

4月8日「記念国際シンポジウム 海域からみる人  
類の文化遺産」の案内をメーリングリストにて告  
知 ※高倉研究企画委員から告知

4月8日「北京原人発見95周年シンポジウム」1st  
Circularの告知 ※平澤渉外委員から告知

4月15日「旧石器文化談話会 第123回定例会」の  
案内をメーリングリストにて告知 ※伊藤会員か  
ら告知

4月26日「Webinar講演会 The Origin and Rise of  
Homo sapiens」の案内をメーリングリストにて告  
知 ※森先総務委員長から告知

2. HPについて前年度の検討をもとにリニューアル  
のための調整・指示、必要データ収集をおこなっ  
た。

2023年5月 HP掲載写真画像の使用願いの申請

2023年12月 HP掲載写真画像の資料使用申請の提  
出、トップデザインの写真・ロゴマーク、階層・

項目のデザイン案をアルケー・リサーチに提出  
 2024年1月 掲載写真画像をアルケーリサーチに提出  
 2024年5月 役員会ののちHPのトップページを変更

## 2024 年度活動計画

2024年6月22日（土）に日本旧石器学会総会が開かれた。2024年度の活動計画案について各委員会から報告が行われ、審議の後に承認された。内容はそれぞれ以下の通りである。

### 総務委員会

以下の項目及び経常的な会務に取り組む。

(1) 総会・研究発表・シンポジウムの準備・連絡調整

・2024年度の総会・研究発表・シンポジウムは、2024年6月に岡山理科大学にて対面開催。公式懇親会を実施する。

・2025年度はAPA日本大会。1stサーキュラーを公開した。実施内容を実行委員会準備会で調整中。詳細は本総会で渉外委員会より報告。

(2) 日本旧石器学会賞の選考

・2024年8月 ニュースレター第57号で学会賞推薦の告知

・2025年3月 学会賞選考委員会を開催し、推薦をもとに受賞者候補を決定

・2025年5月 役員会で承認・決定

・2025年6月 日本旧石器学会総会にて授賞式

(3) 研究グループ

2024年度の研究グループ募集をニュースレター第57号にて行う。

### 会計委員会

2024年度活動計画及び予算（案）について

(表3・4参照)

(1) 一般会計

前年度執行額・予算額をベースに予算編成及び執行を行う。ただし、オンライン開催から対面方式による開催へと変更する行事については、コロナ禍前の執行額をベースに予算編成及び執行を行うこととする。

◎役員会、総会・研究発表・シンポジウム、普及講演会、ワークショップ等の開催に係る経費について

は、オンラインと対面を有効的に使い分け、機動的かつ適正な執行に努める。

・会員に対する刊行物の配付経費等、その他の経費についても適正な執行に努める。

・予備費の適正な活用により、活動の充実を図るとともに、経営安定にも配慮する。

(例) ホームページリニューアルや過去刊行物のホームページ掲載用PDF作成等。

(2) 特別会計

所定の150,000円を積み立て、1,380,000円となるが、2025年度開催にむけ2024年度に準備費として100,000円を予算計上する。

### 会誌委員会

2023年度は、前号が論文と資料報告のみの構成であったことから、多様な原稿の募集に努め、改善を図った。一方、原稿自体の件数が前号より少なくなり、頁数も減少した。次号では、日本考古学協会会場での図書販売が再開されたことを考慮し、刊行時期の目標を5月中旬としたいが、近年、大半の原稿で再査読を要しており、当初の予想以上に編集に時間を費やしていることから、会員に早期の原稿提出を求める必要がある。また、執筆者から査読規定策定の提案があり、次期委員に策定の検討を引き継ぎたい。

2024年度は、新体制により会誌編集を行うが、2023年度の活動を踏まえ、以下の目標を提案する。

①研究企画委員会等と協力しつつ学術的水準を維持し、意欲的で充実した誌面づくりに努める。そのため、各地域の会員からの投稿を募り、多様な論考を集約する。

②日本考古学協会での販売を再開するため、2025年5月中旬までに会誌を刊行する。

③旧石器研究に関する最新情報や関連分野の研究事情について、投稿数を増やすべく広く会員に周知して協力を求める。また、これまでに投稿実績のない執筆者からの投稿も積極的に呼びかける。

④会誌既刊分のデジタルデータ化は、残る5～8号分のデジタル化を行うとともに、公開に向けた作業を進める。

### ニュースレター委員会

2024年度からニュースレターはPDFによる配布のみになる。今年度は第57号、第58号、第59号の編集・発行を行う。会員からの積極的な寄稿をお願い

表3 日本旧石器学会 2024年度一般会計予算(案) 単位:円 ※赤字が2023年度との変更点

収 入				
	2024年度 予算(案)	【参考】2023年 度決算(案)	【参考】 2023年度 予算	摘 要
会費収入				
会費収入	1,368,000	1,398,000	1,380,000	会員数 228 人×6,000 円
その他の収入				
会誌頒布代金	160,000	160,800	201,000	2023 年度実績の千円未満切捨
シンポジウム予稿集頒布代金	228,000	228,000	234,000	2023 年度実績の千円未満切捨
その他収入	67,000	67,780	0	2023 年度実績の千円未満切捨
前年度繰越収支差額	2,066,000	2,075,115	2,075,115	
収入 計	3,889,000	3,929,695	3,890,115	
支 出				
会議費・会場設営費	125,000	62,208	86,000	オンライン会議システム使用料, 総会・シンポジウム会場設営等・昼食代, DB ワークショップ会場等使用料
旅費交通費	83,000	0	83,000	シンポジウム発表者・DB ワークショップ開催委員の交通費補助
通信運搬費	53,000	151,208	92,000	役員引継資料送付費・会誌送料
消耗品費	3,000	1,799	3,000	事務用品等
印刷製本費	1,255,000	1,223,873	1,280,000	会誌印刷, シンポジウム予稿集印刷, NL 印刷・発送・HP 掲載用 PDF 作成費
諸謝金	9,900	0	0	奨励賞名入れ代
委託費	198,000	198,000	154,000	HP 管理・メールリスト構築運用・HP リニューアル費(3ヶ年分割)
次回 APA 日本大会経費積立	150,000	150,000	150,000	
研究グループ運営経費	15,000	15,000	15,000	
日本旧石器学会賞関連経費	68,000	35,324	37,000	賞状製作(3賞), 副賞,
雑費	29,000	25,968	29,000	郵便振替・銀行振込手数料等
予備費	1,948,000	2,066,315	1,961,115	
支出 計	3,936,900	3,929,695	3,890,115	

(備考)年度間の繰越金を除く単年度収支

費 目	2024年度 予算(案)	【参考】2023年 度決算(案)	【参考】 2023年度 予算
前年度繰越額を除く収入	1,823,000	1,854,580	1,815,000
予備費を除く支出	1,988,900	1,863,380	1,929,000
収支差額	△ 165,900	△ 8,800	△ 114,000

表4 日本旧石器学会 2024年度特別会計(APA日本大会開催経費積立) 予算(案) 単位:円

収 入				
	2024年度 予算(案)	【参考】2023年 度決算(案)	【参考】 2023年度 予算	摘 要
積立金収入	150,000	150,000	150,000	次回 APA 日本大会経費積立金
その他の収入	0	6	0	利子
前年度繰越収支差額	1,230,017	1,080,011	1,080,011	
収入 計(①)	1,380,017	1,230,017	1,230,011	
支 出				
APA 日本大会経費	0	0	0	
準備費	100,000	0	0	
予備費	0	0	0	
支出 計(②)	100,000	0	0	
次年度繰越金(①-②)	1,280,017	1,230,017	1,230,011	

いするものである。

【第57号】2024年8月5日刊行

- ・寄稿記事
- ・2023年度委員会報告
- ・2024年度活動計画
- ・2023年度日本旧石器学会賞受賞者
- ・2024年度学会賞の推薦について
- ・2024年度日本旧石器学会役員会（2024年4月～2025年3月）
- ・2024年度研究グループの募集
- ・『旧石器研究』の原稿募集
- ・関連学会・出版情報
- ・お知らせ

【第58号】2024年12月1日刊行（予定）

- ・寄稿記事
- ・2023年度日本旧石器学会賞受賞者報告
- ・2025年度研究大会の案内
- ・普及講演会の案内
- ・関連学会・出版情報
- ・お知らせ

【第59号】2025年4月1日刊行（予定）

- ・寄稿記事
- ・2025年度総会・研究発表・シンポジウムの案内
- ・普及講演会報告
- ・2024年度研究グループ活動報告
- ・関連学会・出版情報
- ・お知らせ

#### 渉外委員会

1. 第12回アジア旧石器協会（APA）に関して
  - ・2025年APA日本大会実行委員会の立ち上げについて審議願いたい。本実行委員会は、会長、副会長、総務委員長、研究企画委員長、会計委員長、渉外委員会、および先の大会準備委員会委員で構成することとし、期間はAPA日本大会終了までとする。
  - ・準備委員会から1st Circularを既に周知しているが、追加情報は2nd Circular以降を通じて実行委員会から会員へ情報を共有する。

#### 2. 海外でのシンポジウム等の情報提供

- ・本学会に関連する国際学会やシンポジウム（オンラインを含む）の開催情報については引き続き情報提供したい。

#### 研究企画委員会

第22回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催

日程：2024年6月22日（土）～23日（日）

会場：岡山理科大学

プログラム：

- ・一般研究発表：口頭7本（1本20分）、ポスターセッション12本
- ・シンポジウム「湧別技法：展開とその背景」発表5本（趣旨説明除く）

#### データベース委員会

##### 1. 改訂・更新作業の継続

- ・更新作業WSをオンライン開催、協力者を確保し作業方法を周知する。開催地域の候補として山形県、茨城県、愛媛県など。
- ・研究上価値のある付加情報の整備とより効果的なDB連携について検討する。

##### 2. 改訂・更新版の公開

- ・作業が完了した地域から、都道府県単位での公開を予定。
- ・英文化データベース（2010年版、改訂版の2種）の公開を予定。
- ・研究活用事例の発信

##### 3. 課題

- ・各地域でWSを開催し、かつ開催後の更新作業を進めるマンパワーが不足している。
- ・広く協力者を得ることとともに、DB委員を中心に安定して作業を進められる体制づくりが必要である。また、Github等を活用した「会員が細かく（数遺跡の追加・修正から）アップデートできる」仕組みを構築し、運用する段階に移したい。

#### 入会資格審査委員会

引き続き、入会申込者の資格審査を迅速に行う。会員各位におかれては、引き続き、積極的に入会希望者の掘り起こしと勧誘を行っていただくようお願い申し上げます。

#### 広報委員会

日本旧石器学会や旧石器時代の周知PRのために、普及講演会の開催、HPの更新や魅力あるコンテンツの作成を柱に、以下のとおり活動を行う。

- （1）普及講演会を開催し、学会や旧石器時代の周知・PRに努める。オンラインでの開催を予定。

(2) 旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコンテンツを追加する。掲載遺跡が少ない四国、近畿、九州を中心に構想。昨年度に引き続き現在依頼中及び依頼済み。

(3) HPをリニューアルし、アクセス数の増加を図る。3年を目安に順序立てて行う。引き続き総務委員会とも連携して協力する。

(4) その他 旧石器時代関連の周知に関する共催・後援・協力事業を実施する。

### 2023年度日本旧石器学会賞受賞者

2024年3月13日(水)に2023年度日本旧石器学会賞選考委員会を開催し、学会賞候補者1名、論文賞候補者1名を選考しました。これを受け、5月17日(日)に役員会において選考結果を報告し、承認されました。授与式は6月22日に行いました。若手奨励賞については、2023年6月23日に学会賞選考委員会を開催して候補者1名を選考しましたが、本年度は該当者なしとなりました。

- ・2023年度学会賞受賞者  
佐久間光平氏(前 宮城県教育委員会)
- ・2023年度論文賞受賞者  
山田 哲氏(北見市教育委員会)

学会賞、論文賞の選考理由と受賞者の言葉は本紙次号に掲載します。

### 2024年度学会賞の推薦について

「日本旧石器学会賞規定」に則り、2024年度の学会賞受賞候補の推薦を募ります。旧石器研究の発展に貢献し優れた業績をあげた会員を推薦してください。

1. 推薦内容：学会賞受賞候補
2. 推薦期間：2024年9月25日(水)～2025年2月15日(土)(必着)
3. 推薦者の資格：日本旧石器学会員

4. 推薦方法：学会賞受賞候補の氏名、学会賞受賞候補の推薦理由、推薦者の氏名・連絡先をご記入の上、郵送もしくは電子メールにより下記の事務局あてに送付して下さい。

#### 5. 注意事項

- ・推薦は自薦・他薦を問いませんが、お一人につき一名を限度とします。
- ・学会賞受賞候補は、日本旧石器学会会員に限ります。推薦にあたって、学会賞受賞候補ご本人の承諾を得る必要はありません。
- ・推薦の書式は自由です。
- ・推薦理由は概ね100字から300字にまとめてください。

#### 6. 応募先・照会先：日本旧石器学会事務局

(担当：鹿又喜隆・長崎潤一・尾田識好)  
〒206-0033 東京都多摩市落合1-14-2  
東京都埋蔵文化財センター調査研究部

尾田識好方  
E-mail: jim@palaeolithic.jp

### 日本旧石器学会研究グループの募集

日本旧石器学会では、旧石器考古学またはこれに関連する研究課題について国内・国外の情報を交換し、研究することを目的として、研究グループを設置しています。「日本旧石器学会研究グループ規定」には自由に研究を行うことができ、運営費を補助することが盛り込まれています。

つきましては2024年度の日本旧石器学会研究グループを募集します。研究グループの発足を希望する会員は、グループ名、代表者名、連絡先、研究目的、活動予定期間、参加者数、運営費交付希望の有無などを記入して本学会事務局に応募してください。募集期間は2025年3月31日(月)まで。応募・問い合わせ先は、日本旧石器学会事務局へ電子メールまたは郵送でお願いします。

#### 応募先・照会先：日本旧石器学会事務局

(担当：鹿又喜隆・長崎潤一・尾田識好)  
〒206-0033 東京都多摩市落合1-14-2  
東京都埋蔵文化財センター調査研究部

尾田識好方  
E-mail: jim@palaeolithic.jp

## 日本旧石器学会役員会 (2024年4月～2026年3月)

会 長：堤 隆

副会長：大竹憲昭

総務委員会：

\* 鹿又喜隆，長崎潤一，尾田識好，舟木太郎，  
森先一貴

会計委員会：

\* 大場正善，三好元樹，越知睦和

会誌委員会：

\* 中村雄紀，小原俊行，松本 茂，沢田 敦

ニュースレター委員会：

\* 仲田大人，夏木大吾，上峯篤史

渉外委員会：

\* 佐野勝宏，鈴木美保，出穂雅実，平澤 悠

研究企画委員会：

\* 岩瀬 彬，青木要祐，洪 惠媛

データベース委員会：

\* 間直一郎，氏家敏之，野口 淳，熊谷亮介

入会審査委員会：

\* 氏家敏之，大竹憲昭

広報委員会：

\* 夏木大吾，橋詰 潤

会計監査委員：

渋谷孝雄，石川恵美子

日本旧石器学会賞選考委員：

\* 森先一貴，堤 隆，大竹憲昭，岩瀬 彬，  
鹿又喜隆

選挙管理委員会：

\* 諏訪間順，下岡順直，大谷 薫  
以上、\*は委員長，\_は委嘱委員

アジア旧石器協会：

佐藤宏之（会長）

佐野勝宏，鈴木美保（執行委員）

## メーリングリストへの登録

日本旧石器学会ではメーリングリストを活用しております。学会からの連絡手段として利用するとともに、情報交換の場としても活用するために設けたものです。また、今後はニュースレターのPDF配布等にも利用されます。そのため、2024年6月の総会により、入会時に届出いただいているメールアドレスをメーリングリストに登録させていただくこととなりました。ご理解のほどよろしくお願ひいたし

ます。

登録メールアドレスの変更を希望される方は、事務局メールアドレスまでご連絡ください。

E-mail: jim@palaeolithic.jp

## お知らせ

### 日本旧石器学会入会申込み手続きについて

日本旧石器学会入会申込みにつきましては、入会申込書を日本旧石器学会ホームページからダウンロード (<http://palaeolithic.jp/join.htm>) し、必要事項を記載の上、日本旧石器学会事務局へ郵送してください。入会資格審査にあたっては論文等著作物の提出を求める場合があります。ご協力ください。

### 会費納入・住所変更手続きのお願い

日本旧石器学会は、皆様の会費によって運営されているため、会費は原則前納制としております。未納の方は今年度分会費の納入をお願いします。振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号00180-8-408055です。全国の郵便局で簡単に手続きいただけます。会費は6,000円です。

また、会費滞納は本会運営に大きな支障を招く原因になります。会費納入状況をご確認のうえ、2024年度以前の会費を未納の方は、未納分もあわせて納入をお願いいたします。

転居された方は、必ず住所変更の手続きをお願いいたします。郵便局に転居届を出されていても、本会では郵便局以外の配送会社を利用していますので転送していただけません。会費納入の際に払込取扱票に新住所を記載いただくか、または事務局までメール等でご連絡ください。

日本旧石器学会ニュースレター 第57号

2024年8月5日発行

編集: 日本旧石器学会ニュースレター委員会

仲田大人・夏木大吾・上峯篤史

発行: 日本旧石器学会

事務局：〒206-0033

東京都多摩市落合1-14-2

東京都埋蔵文化財センター調査研究部

尾田識好方 日本旧石器学会事務局

E-mail jim@palaeolithic.jp

HP <http://palaeolithic.jp/index.htm>